



土砂災害に関する情報提供等について

令和5年8月

奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

【土砂災害に関する最新の防災情報】<国土交通省砂防部より>

令和4年の土砂災害について(概要)

○ 令和4年の土砂災害発生件数の速報値が令和4年12月23日に公表されました。

<令和4年の土砂災害>

- ・42道府県で788件※の土砂災害が発生し、死者2名、人家被害284戸の被害が生じた。
※土石流等、地すべり、がけ崩れが発生した件数(火砕流は除く)。
- ・8・9月の合計では、32道県で524件の土砂災害が発生し、直近10年(H24-R3)の同期間の平均発生件数(366件)を上回った。
- ・台風第15号では全数の9割以上の167件の土砂災害が静岡県で発生した。これは単一の台風、単一の県で発生した件数として歴代2位であった。

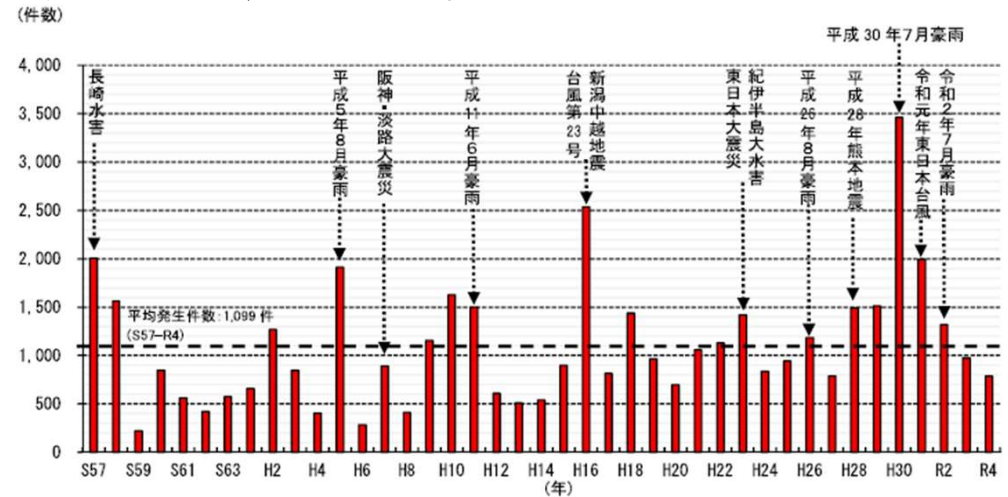


図. 土砂災害発生件数の推移 (S57~R4)

表1. 都道府県別の土砂災害発生件数 上位5県(速報値)

	都道府県	件数	死者数	過去10年最多(H24-R3)
1位	静岡県	211件	1名	87件 (R1)
2位	新潟県	77件	—	195件 (H29)
3位	宮崎県	70件	1名	127件 (H28)
4位	鹿児島県	68件	—	202件 (R1)
5位	宮城県	33件	—	261件 (R1)

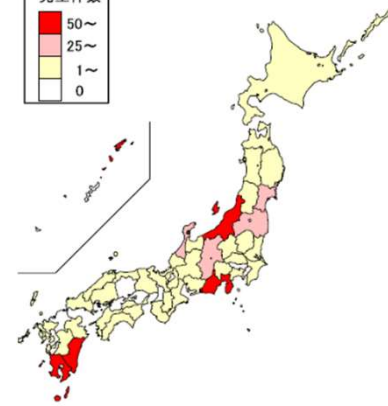


気象現象別発生件数

8月3日からの大雨	: 212件
台風第15号	: 182件
台風第14号	: 111件

凡例 発生件数

50~	(Red)
25~	(Light Red)
1~	(Yellow)
0	(White)



令和4年の土砂災害発生状況

土砂災害発生件数
788件

〔土石流等: 198件
地すべり: 39件
がけ崩れ: 551件〕

【被害状況】

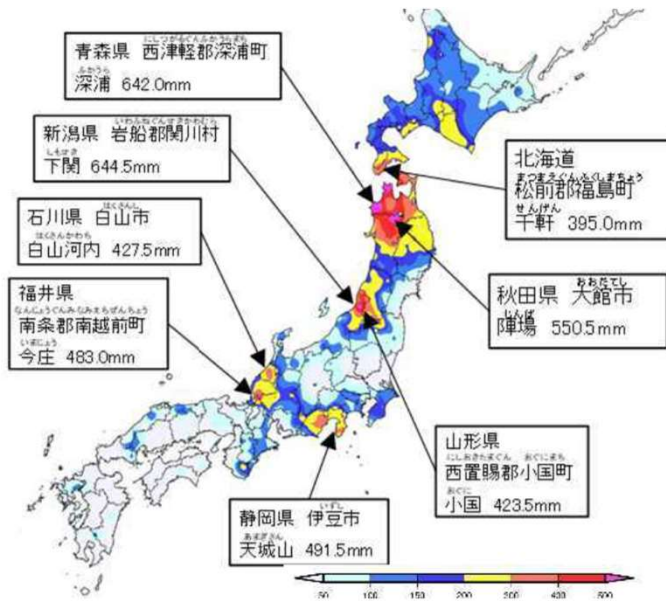
人的被害: 死者 2名
負傷者 6名
人家被害: 全壊 31戸
半壊 34戸
一部損壊 219戸



【土砂災害に関する最新の防災情報】<国土交通省砂防部より>

令和4年の土砂災害について(8/3からの大雨における土砂災害発生状況)

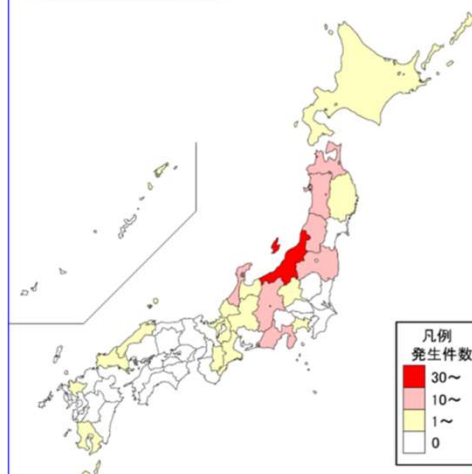
- ・8月3日から27日にかけて日本全国で断続的に大雨が降り**22道県**で**212件**の土砂災害が発生。
- ・顕著な被害のあった近年の災害に比べ土砂災害発生件数は少ないものの、全国各地の**36のアメダス観測地点**で**1時間降水量の観測史上1位を更新**、その結果、**土砂災害が局所的かつ集中的に発生**したことが今回の災害の特徴といえる。
- ・また、近年の災害の特徴である土石流とともに流れる**流木**により**被害が拡大**した事例が見られた。
- ・新潟県村上市の小岩内地区では甚大な被害が生じたものの、**砂防関係施設が一定程度の効果を発揮していたこと、適切な避難行動により犠牲者はでなかった**ことが確認された。



8月3日からの大雨と近年顕著な被害のあった大雨における観測史上1位の値を更新した観測点数と土砂災害発生件数の比較

	今回の大雨 (令和4年8月)	平成23年7月 新潟・福島豪雨	平成30年7月 西日本豪雨	令和元年 東日本台風
24時間降水量	31地点	8地点	77地点	103地点
3時間降水量	30地点	15地点	16地点	40地点
1時間降水量	36地点	15地点	14地点	9地点
土砂災害発生件数	212件	268件	2581件	952件

8月3日からの大雨における土砂災害発生件数



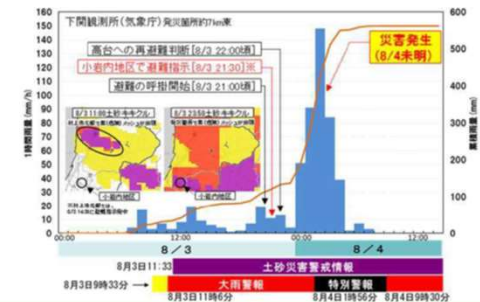
○地域毎の発生状況
 北海道: 3件、東北: 65件、関東: 20件、
 北陸: 92件、中部: 15件、近畿: 10件、
 中国: 2件、四国: 0件、九州: 5件、
 沖縄: 0件

新潟県村上市小岩内地区の事例

最上流部では大雨の影響で山腹斜面の崩壊が多発

中流部では砂防堰堤が大量の流木・土砂を捕捉

下流部では地区役員による住宅1軒ずつへの避難呼びかけと、避難後の昭和42年羽越水害を教訓とした高台への再避難の実施により犠牲者はでなかった



【土砂災害に関する最新の防災情報】 <国土交通省砂防部より>

令和4年の土砂災害について(土砂災害警戒避難の好事例)



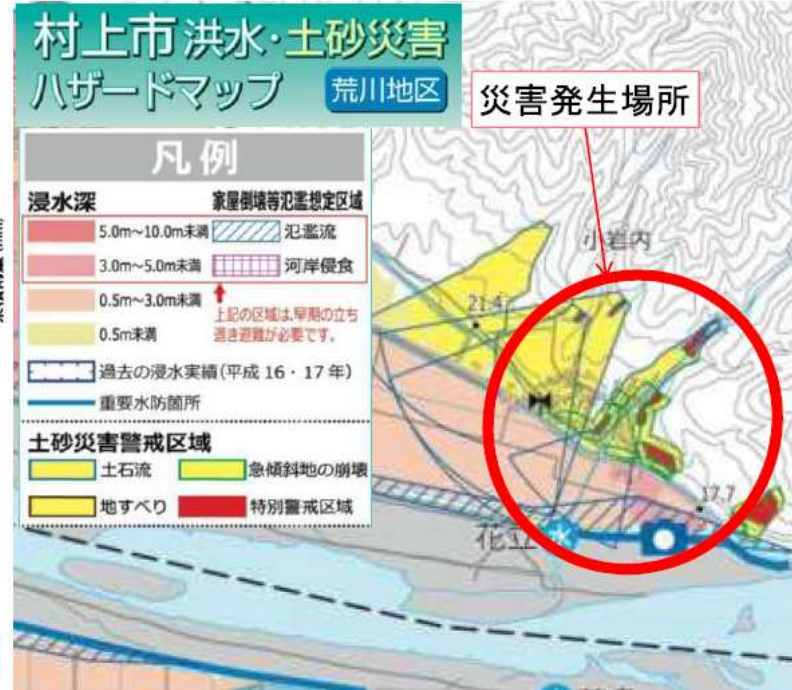
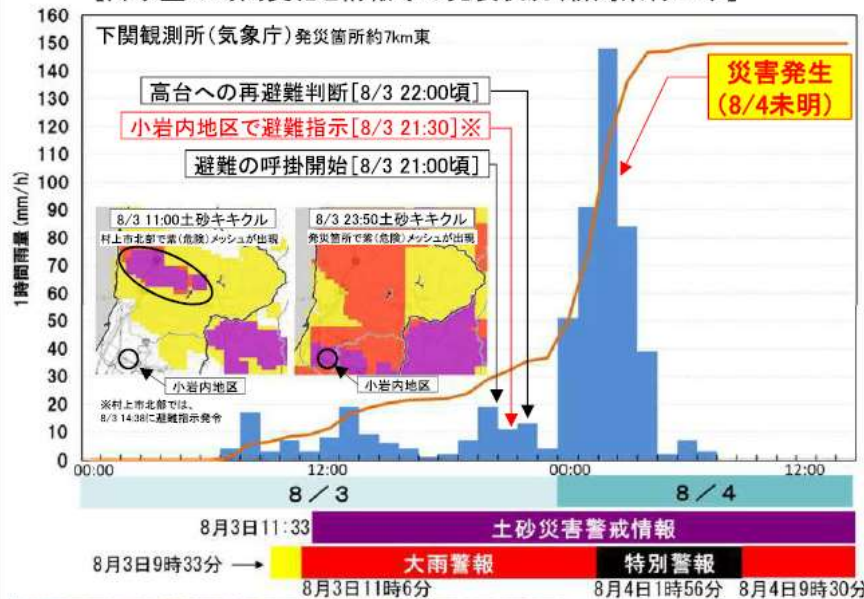
令和4年8月
避難事例

過去の水害教訓、避難の呼び掛けにより被害を逃れた事例(新潟県村上市小岩内地区)

こいわうち

- 令和4年8月3日からの大雨において、新潟県村上市小岩内地区では、複数の住宅が巻き込まれる土石流災害が発生。
- 地区役員が3日21時頃、住宅を1軒ずつ回り、避難を呼び掛けた。一度は地区の公会堂に避難したが、昭和42年羽越水害を教訓とし、高台に位置する住宅等へ「再避難」を実施し、犠牲者はいなかった。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況(新潟県村上市)



人的被害：負傷者1名



【区長コメント】

- いち早く高台に再避難できたのは、55年前の大水害(羽越水害)の経験が大きい。(公会堂は羽越水害でも被害に遭った場所だった)
- 空振りでもいいと開き直り、住民たちに再避難を呼び掛けた。

【奈良県における土砂災害防止に向けた取り組み】

小中学校における土砂災害防止に関する出前講座

- ・奈良県砂防・災害対策課では、各市町村教育委員会を通じて小中学校へ土砂災害防止に関する出前講座を募集しており、令和4年度は6つの小学校で実施。（実施市町村：奈良市・宇陀市・平群町・十津川村）
- ・令和4年度は県土木職員のOB団体である「奈良県砂防ボランティア協会」と連携し、宇陀市室生の「室生地すべり見楽館」にて合同講座を実施。前半で砂防・災害対策課職員から土砂災害の概要、周囲の土砂災害警戒区域の確認方法の解説を行い、後半は砂防ボランティア協会員が見楽館のジオラマや屋外の抑止杭、集水井等の施設解説を行った。

<主な講座内容>

- ・奈良県の特徴とこれまでに起こった災害（大和川大水害、紀伊半島大水害）
- ・土砂災害の種類について ・表層崩壊と深層崩壊について（模型実演）
- ・付近の土砂災害警戒区域の確認、気象情報の意味合いを解説



<出前講座の様相>



<室生地すべり見楽館における合同講座>



【奈良県における土砂災害防止に向けた取り組み】

土砂災害パネル展 ～土砂災害から身を守るために～

- ・奈良県砂防・災害対策課では、主に6月の土砂災害防止月間やその後の出水期に、県内各地で「土砂災害パネル展」を実施。令和4年度は県内のイオンモールや「道の駅吉野路大塔」や防災訓練など、計10箇所においてパネル展および模型実演を実施。
- ・各パネル展は国土交通省紀伊山系砂防事務所と共催したほか、それぞれのパネル展において個別に奈良地方気象台、奈良県警察、地元市町村のパネルを展示し、総合的な展示になるように取り組んだ。
- ・今年度は土砂災害警戒区域を確認できるブースを設置し、自宅付近の土砂災害警戒区域を確認していただいた。
- ・来年度は、紀伊半島大水害で被害を受けた県南部でのパネル展開催に向け、関係自治体と打ち合わせを行う予定。

